

立川市第4次文化振興計画 令和2年度の主な取組状況

(令和3年7月1日現在)

I ふれる、たのしむ～暮らしの中に文化芸術を感じることでできる環境をつくる～

市民の文化活動が活発化し、継続できる環境づくりを進めるとともに、鑑賞者として、暮らしの中で自然の文化芸術に触れ、楽しむことができるよう取り組みます。

1. 文化芸術の活動やイベントの充実

①市民の文化芸術活動支援 【重点取組事項】

■市民文化祭

- ・長い歴史を有する文化協会が立川市民文化祭として、例年10月から3月にかけて開催していましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、各地区文化会や文化団体の多くの事業が中止となり、文化協会全体の「市民文化フェスティバル」(11/8(日)バレエの部)は開催することができました。実際に開催された事業は例年の3割程度となり、市民の文化活動に大きな影響が及ぶこととなりました。

■地域学習館まつり

- ・例年、5月から3月にかけて、社会教育関係団体等の発表・交流の場として、6館の地域学習館で「地域学習館まつり」を開催していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により錦学習館のみの開催となりました。

■アール・ブリュット立川

- ・アール・ブリュット立川実行委員会が、伊勢丹立川店(9/16(水)～21(月・祝))をはじめ、高松学習館(9/2(水)～15(火))、立川タクロス mini ギャラリー(9/17(木)～30(水))で、アール・ブリュット立川2020を開催しました。
東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせ、文化プログラムのひとつとして昭和記念公園花みどり文化センターでの作品展も計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和3年度に延期となりました。

■Tokyo Tokyo FESTIVAL との連携

- ・ファール立川アートのイベントである「ファール立川アートミュージアム・デー2020 秋」については、東京 2020 オリンピック・パラリンピック 競技大会を契機に文化の面から東京を盛り上げる取組「Tokyo Tokyo FESTIVAL」（東京都助成事業）の連携事業に位置付けられました。

また、「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の助成事業として「第 63 回立川市民文化祭」、「立川 いったい音楽まつり」、「アール・ブリュット in 昭和記念公園」の 3 事業について、申請を行い、令和 2 年度は「第 63 回立川市民文化祭」が助成を受けることができました。他 2 事業については新型コロナウイルス感染症の影響により事業が延期となったため、助成も令和 3 年度に延期となりました。

- ・Tokyo Tokyo FESTIVAL の中核を彩る事業として東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団が実施している「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13」の中の 1 事業である「DANCE TRUCK TOKYO」の開催地として立川市が選ばれました。新型コロナウイルス感染症の影響により令和 2 年度の開催は出来ませんでした。令和 3 年 4 月 9 日（金）にサンサンロードにて開催されました。

②文化芸術イベントの開催

■立川いったい音楽まつり

- ・市民主体の実行委員会形式による第 9 回立川いったい音楽祭りについては、5/16（土）、17（日）に開催予定（参加団体：295 団体）でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。代わりに立川いったいオンライン音楽まつりとして Web 上で開催いたしました。（185 団体）

■立川市民オペラ

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、オペラ本公演ではなく、立川市民オペラ公演 2020-2021「トゥーランドット」ハイライト&ガラコンサートを 3/20（土・祝）・21（日）に行いました。来場者は 2 日合わせて 690 人でした（ホールの収容人員は定員の 50%以下で実施）。

■立川市地域文化振興財団の鑑賞事業・普及事業

- ・財団が、コロナ禍においても感染症対策を行い、たましん RISURU ホールでクラシックや演劇などの公演を実施し、市民が地域で気軽に文化芸術に触れるよう取り組みました。（ホールの収容人員は原則定員の 50%以下で実施）。また、例年学習等供用施設や

福祉施設など、市内各所で落語や音楽などの公演を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により錦学習館のみの開催となりました。

■立川シアタープロジェクト

- ・市は、財団、NPO 法人アートネットワーク・ジャパン（たちかわ創造舎）と実行委員会形式により、地域の劇場文化の活性化や人材育成及び立川からの演劇文化の発信を目指し、平成 28 年度に「立川シアタープロジェクト」を立ち上げました。

令和 2 年度は、8/9（日）、12/26（土）、2/28（日）にたましん RISURU ホールの大・小ホールや展示室で「あちこちシアター」を開催しました。従来の「よみしばい」形式だけでなく、コロナ禍の対応として、ダンスを中心にした演目もおこない、来場者は 3 回合わせて 147 人（大人 89 人・子ども 58 人）でした。また、プロの演出家や俳優の指導のもと子ども達が演劇を体験できるワークショップ「子ども未来エンゲキ部」を実施し、物語や演劇の世界を深める取組も行いました。コロナ禍対応として、対面の取り組みに加え、オンラインでのワークショップも行いました。参加者は 11 人（うちオンライン 1 人）で、子どもたちが演劇を通して自己表現力等を高めること等に寄与しました。

- ・例年クリスマスシーズンに演劇を市民に届ける「子どもとおとなが一緒に楽しむ舞台」については、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、RISURU ホールではなく「ファーレ立川アートミュージアム・デー2021 春」での野外演劇として開催する予定でしたが、緊急事態宣言を受け中止となりました。

2. 文化芸術の活動や発表の場の充実

①市内公共施設や公共スペースの活用

■公共スペースの活用

- ・財団が主催で、市役所ロビーや女性総合センター・アイムホール及び学習館などを活用して、ロビーコンサートや「どこでもステージ」として落語会やコンサートなどを企画しておりましたが、コロナ禍により多くの事業が中止となってしまいました。

■旧多摩川小学校

- ・旧多摩川小学校有効活用事業につきましては、平成 27 年度から「たちかわ創造舎」が、「インキュベーション・センター事業」「フィルムコミッション事業」「サイクル・ステーション事業」とともに、「コミュニティ・デザイン事業」として演劇など多様な文化創造活動を展開してきましたが、5 年間の契約期間が令和 2 年度で満了し、第二期

(令和 3. 4～8. 3) について、本委員会のご意見を聴きながら、引き続き「たちかわ創造舎」と基本協定等を更新することとなりました。

- ・ほうかごシアターとして、原則、月 1 回平日夕方に、大人も子どもも楽しめる「よみしばい」の上演 (30 分程度) を行いました。『星の王子さま』『雪の女王』などの作品を上演。また、緊急事態宣言を受け休館となった際には、ほうかごシアターオンラインとして「はだかの王さま、耳はロバ」、「泣いた赤鬼」などの作品の配信を行いました。

■子ども未来センター

- ・子ども未来センターでは、指定管理者と石田倉庫のアーティストが連携して、「子ども未来センター美術部 美術部長はアーティスト」を 9 月・12 月に実施しました (計画では 7・10・12 月開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により変更)。
- ・例年行われている「ヴァイオリン・グループレッスン講座」は緊急事態宣言の影響もあり開催できませんでしたが、「ドラムサークル」や「演劇ワークショップ」などの文化芸術活動支援事業を行いました。

②民間施設の文化芸術活動への活用推進

■サンクタス立川ギャラリー

- ・緑町にあるマンション「サンクタス立川」の西側壁スペースを、管理組合の協力を得て、ギャラリーとして無料貸し出ししています。令和 2 年度は、3 件 (絵画等) の申請がありました。

＊令和 2 年度の成果指標については、新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベントの開催制限や公共施設の休業要請や収容定員及び時間制限等により、数値が減少している状況となっています。

成果指標	基準値 平成 25 年度末	計画策定時 平成 30 年度末	令和 2 年度末	目標値 令和 6 年度末
日ごろから文化芸術に触れる機会があると思う市民の割合	38. 4%	46. 1%	41. 4%	52. 0%
財団が展開する文化芸術事業への来場者数	47, 500 人※	73, 640 人	17, 453 人	81, 000 人

たましん RISURU ホールと 子ども未来センター の来場者数	701,044 人※	793,211 人	274,664 人	830,000 人
市民文化祭、地域学 習館まつり 来場者数	30,807 人	29,031 人	3,452 人	35,000 人

※平成 26 年度の値を使用（平成 25 年度はたましん RISURU ホールの休館期間があったため）

Ⅱ はぐくむ、ささえる～子どもや若者の感性を育む、アーティストを支援する～

だれもが文化芸術に触れる場や機会を充実させるとともに、アーティストやボランティアなど文化芸術活動のづくり手や支え手の人材育成・支援に取り組みます。

1. だれもが文化芸術に触れる機会の創出

①子ども対象文化芸術事業の充実

■小学校ファーレ立川アート鑑賞教室

- ・財団が、ファーレ立川アート鑑賞教室を実施。市民ボランティア団体のファーレ倶楽部が、市内全小学校の 5 年生にアート作品を案内しました。

■小・中学校訪問事業等

- ・財団が、小学校訪問事業として、音楽（16 校）、落語（13 校）、アート（3 校）、ダンス（5 校）、中学校訪問事業として音楽（5 校）のプログラムを実施するとともに、小学校演劇体験事業を実施しました（小学生・中学生吹奏楽クリニックは新型コロナウイルス感染症の影響により中止）。

■キッズ・ワークショップ等

- ・財団が、音楽や工作など 6 回の子ども向けワークショップを実施しました。また、アーツカウンシル東京と連携し、キッズ伝統芸能体験として、子どもたちに伝統文化に触れてもらう機会を提供しました。

■こどものためのお箏教室

- ・平成29年1月より、毎月3回稽古を積み、毎年発表会を開催してきましたが、令和2年度の「ラストコンサート」をもって教室を終了しました。財団と(公社)日本三曲協会の主催。

②学生・若者・障害者等の文化芸術活動への参加促進 【重点取組事項】

■国立音楽大学との協定による各種事業

- ・学生の文化芸術活動支援や市民への文化芸術に触れる機会の創出等のため、市と連携協定を締結している国立音楽大学との協力により、同大学の学生やOBによる各種演奏会や小中学校の音楽鑑賞教室、講演会など約30の事業を行いました。

■文化芸術のまちづくり協議会自主事業

- ・令和2年度は地域の文化芸術の未来を考える勉強会や研究会等の自主事業を検討していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施しませんでした。

■アール・ブリュット立川（再掲）

- ・障害のある人もない人も共に暮らしやすい立川を理念に掲げて活動しているアール・ブリュット立川実行委員会への支援を行いました。

また、文化振興推進委員会の委員として施策に対する意見等を反映していくため、令和元年からアール・ブリュット作家にも参加いただいております。

2. 文化芸術の担い手の支援

①文化芸術に関わるボランティアの育成

■文化芸術のまちづくり協議会実施講座

- ・文化芸術のまちづくり協議会が、アートを応援して支える市民を育てる「アート・サポーター養成講座」を実施。令和2年度は「文化芸術を書いて応援！」をテーマに市民ライター養成講座を行いました。緊急事態宣言を受け、全4講座から全3講座へと変更にはなりましたが、14名の方が記事作成の方法などを学び、新たに5名の方がボランティアとして登録される予定となっています。

②アーティスト活動の支援

■たちかわ創造舎のインキュベーション・センター事業

- ・たちかわ創造舎のシェア・オフィスには、3団体・1個人が入居し、校舎を利用しての体験型演劇や市内各所での野外劇、中高生対象の演劇ワークショップ、チョークアートワークショップなど、地域の中での活動を進めています。

■多摩フレッシュ音楽コンサート

- ・東京多摩公立文化施設協議会主催のコンクール形式の「多摩フレッシュ音楽コンサート」を財団が実施。令和2年度はコンサートは中止となりましたが、前年度の声楽部門の受賞者のために、ソロリサイタルの機会を提供しました（ピアノ部門・声楽部門（ソプラノ）受賞者のソロリサイタルは延期）。

■文化芸術のまちづくり事業補助金

- ・令和2年度は6団体が文化芸術のまちづくり事業補助金・奨励金の交付対象となり、実際に事業を実施、もしくは実施準備まで行った4団体に対し交付を行いました。

■アート・マーケット

- ・令和2年度は中止となりました。

■市役所ロビーコンサート・水曜コンサート

- ・財団が実施する、たましん RISURU ホールの水曜コンサートに国立音楽大学の学生や若手アーティストに出演していただきました。市役所ロビーコンサートは中止となりました。

成果指標	基準値 平成 25 年度末	計画策定時 平成 30 年度末	令和 2 年度末	目標値 令和 6 年度末
財団が展開する子ども対象事業と子ども未来センターの文化芸術支援事業の参加者数	2,999 人※	9,012 人	5,403 人	10,000 人
文化芸術活動ボランティア登録者数	101 人	139 人	144 人	160 人
財団が展開する事業のうち学生による公演数（累計）	35 回	145 回	157 回	260 回
文化芸術のまちづくり補助金補助対象事業数（累計）	36 事業	65 事業	77 事業	100 事業

※平成 26 年度の値を使用（平成 25 年度はたましん RISURU ホールの休館期間があったため）

Ⅲ つたえる、とどける～文化芸術の意義を伝えていく～

文化芸術活動の継続的発展やまちの魅力向上を目指し、文化芸術に関する情報の積極的な発信、文化財保存や伝統文化の継承支援等に取り組みます。

1. 文化芸術を活用し、広く発信する取組

①文化芸術資源を生かしたシティプロモーションの展開

■ファーレ立川アート保全・活用事業

- ・街区のビル所有者や市民団体のファーレ倶楽部、市などで構成するファーレ立川アート管理委員会が、「ファーレ立川アート 保全・活用方針」（平成 28 年 3 月）に基づき作品の維持・保全を行い、市民ボランティアのファーレ倶楽部による清掃等も行われました。
- ・ファーレ立川アートのブランド価値の向上や国内外への情報発信等を目指し、街区を美術館に見立てた複合イベント「ファーレ立川 アートミュージアム・デー」を 10/17(土)・18(日)及び 3/6(土)に開催しました。同イベントでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部内容の縮小や変更等もありましたが、文化功労者の北川フラム氏、立川市長及び同委員会会長らによるトークショーや屋外演劇、企画展及びアートツアー等を催し、ファーレアートの周知やシティプロモーション等に取り組みしました。

その他、作品案内アプリ「ファーレ立川アートナビ」や多言語のパンフレット、関連グッズなどを活用した周知などに取り組みしました。

■立川まんがばーく

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、指定管理者の特徴的な自主事業である令和 2 年度の立川まんがばーくの利用者数は、33,081 人で、例年の 3 割程度の利用者となっております。（4.5 月は休館、6 月以降入場者数・開館時間の制限あり）

②事業者・民間イベント等との連携

■立川よいと祭り

- ・立川よいと祭りについては、実行委員会に助成するとともに、協働事務局を財団が担っています。令和 2 年度は 8/1（土）の開催を予定していましたが、新型コロナウイ

ルス感染症拡大防止を考慮し中止としましたが、次回開催に向けてのPR・市民の機運醸成を図るため、これまでの30年の歴史を振り返る映像を制作しJ:COMチャンネル多摩にて5日間に渡り放映し、多くの人に視聴され、立川よいと祭りへの関心を高めました。

■伝統文化親子教室事業支援

- ・お囃子や獅子舞などの市民団体11団体に対し、東京都の伝統文化親子教室事業補助金の申請支援をしました。

2. 文化財・伝統文化を伝え、生かす取組

①文化財・伝統文化の継承、市史の編さん【重点取組項目】

■市史編さん事業

- ・先史、古代・中世、近世、近代、現代、民俗・地誌の6部会が、巡見や資料の調査・収集、古老や関係者からの聞き取りにあたり、成果として資料編「近世1」、資料編「近代2」及び調査報告書「柴崎の口承文芸」を刊行し、市役所本庁舎、歴史民俗資料館及び市内一部書店で頒布しております。
- ・事業の周知については、9月と3月に広報紙「たちかわ物語」を発行し、市施設の窓口等に配架するとともに市ホームページに掲載しました。
- ・講演会については、新型コロナウイルス感染症の影響により、会場での開催から動画配信とし、テーマを「暮らしの中の祭りといのり」と題し、立川市動画チャンネルにて配信しました。動画チャンネルでの配信により会場での開催と比べ、多くの方に観ていただくことができました。
- ・3/29（月）～4/5（月）まで、本庁多目的プラザにてパネル展「立川市史編さん事業と公文書」を開催し、市民への周知に努めました。

■歴史民俗資料館・古民家園

- ・歴史民俗資料館・古民家園等で、体験学習会等を8回、企画展等を14回開催しました。また、市民団体との連携事業や出張講座等を12回開催しました。

②文化財・市史編さん資料の保存、活用方法の検討

■文化財

- ・文化財の登録・指定、保存のための助成を行うとともに、地域の歴史や伝統文化に触れる機会の充実を図りました。

■市史編さん事業

- ・市史編さんに伴い収集した資料や市民から寄贈された資料の整理や保管、活用及び公開方法について今後検討を進めていきます。

成果指標	基準値 平成 25 年度末	計画策定時 平成 30 年度末	令和 2 年度末	目標値 令和 6 年度末
ファーレ立川アートツアー参加者数※	1,811 人	2,311 人	1,798 人	2,700 人
ファーレ立川アート管理委員会 ホームページアクセス数（年間）	11,619※※	31,778	40,022	35,000
立川市地域文化振興財団 ホームページアクセス数（年間）	181,609	149,976	70,637	165,000
歴史民俗資料館収集資料点数	13,119 点	16,589 点	17,466 点	17,200 点

※ファーレ倶楽部が主催するアートツアーの参加者を含む。

※※平成 27 年度の値を使用（平成 27 年度に開設したため）。

Ⅳ つなげる、ひろげる～文化芸術の波と輪を広げていく～

文化芸術活動の発展を目指し、さまざまな連携とネットワーク化等に取り組めます。

1. 文化芸術のネットワークを広げ、つなげる取組

①多様な主体や他の分野との連携・交流の促進

■文化芸術のまちづくり協議会自主事業

- ・市民、文化団体、大学、企業、行政等で構成する文化芸術の支援団体としての立川文化芸術のまちづくり協議会の周知や新たな会員や市民の参加を目指し、協議会発足 10 周年を機に発行した事業紹介パンフレットを増刷し、新たに市の施設等に配架をしました。また、協議会の web サイト「TACHIKAWA BILLBOARD」内に協議会の事業紹介ページを作成し、多様な主体や異分野が連携・交流が促進されるようなプラットフォームづくりに取り組みました。

■たちかわ創造舎

- ・たちかわ創造舎では、多摩エリアを中心に文化を担う個人や団体、地域の方々と事業の実施等を通じた連携・交流をおこなっています。

②文化芸術に関わる情報のプラットフォームづくり

■文化芸術のまちづくり協議会ホームページ

- ・文化芸術のまちづくり協議会が平成 26 年度に立ち上げたホームページ「TACHIKAWA BILLBOARD」で、アーティストやイベントの情報発信、地元企業の歴史などの紹介を行っています。

成果指標	基準値 平成 25 年度末	計画策定時 平成 30 年度末	令和 2 年度末	目標値 令和 6 年度末
立川いったい音楽まつり 応募団体数	126 団体	357 団体	457 団体	500 団体
まちづくり協議会 ホームページアクセス数 (年間)	3,411	7,071	9,832	10,000